

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	慶應義塾大学	整理番号	1-1-023			
応募テーマ	主として総合的取組に関するテーマ					
取組名称	問題発見解決型教育の先導実践					
申請単位	キャンパス単位					
申請担当者	熊坂 賢次					
<p>(取組の概要)</p> <p>慶應義塾大学は、1990 年に開設した湘南藤沢キャンパス（総合政策学部、環境情報学部）において、新しい時代状況に適合した問題発見解決型教育を実践し始めた。AO 入試、外国語教育、情報リテラシー教育などを実施し、日本の大学改革を先導する役割を果たしてきた。</p> <p>1994 年に政策・メディア研究科、2001 年には看護医療学部を開設し、現在はさらにこの教育方法の徹底化、高度化、多様化を目指している。最先端の情報ネットワーク環境の下で、教員と学生が一体になって高度な専門研究に挑戦することこそが教育実践になるとの認識から、研究と教育が融合する仕組みを創り上げた。その核心が研究プロジェクトを中心に据えて、学年配当制を廃止したクラスター誘導型カリキュラムの再編成である。</p> <p>今後は 5 年計画で 2008 年を目指し、ユビキタス環境の整備、ベンチャー育成支援、デジタルアジア連携、地域社会連携などのプログラムを推進し、慶應義塾大学が目指す「独立自尊」と社会を先導する人材の育成に向けて、問題発見解決型教育をさらに実践していく。</p>						
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの教育目的・教育方針である問題発見解決型教育の先導実践を実現するため、慶應義塾大学の大学評議会の審議を経て、爾来、13 年にわたって組織的に実施され、関係者の努力により当初の目標を達成し成果を上げています。さらに、これを基盤として新しい環境に適応した制度改革を実現するため、問題発見解決型教育の実践を徹底・発展すること、デジタルキャンパスを実現することを目的として SFC version2.0 という教育改革が試みられ、3 年が経過しています。これらの取組は文・理の協調、教育と研究の融合、教養と専門の融合等優れた特徴がありますが、藤沢キャンパスにこだわらず、多様な専門分野の教育研究を行っている全学の教員の協力を得ることができれば、大きな成果が期待でき、他の大学の参考になる事例です。</p>						